

使徒の働き 2章 地理・地域ガイド

ペンテコステ（五旬節）にエルサレムへ集まった人々が出身した古代世界エリアマップ

「パルテア人、メディア人、エラム人、またメソポタミア、ユダヤ、カッパドキア、ポントとアジア、フリギアとパンフィリア、エジプト、クレネに制限近いリビヤ地方の住人、またローマからの旅人たちで、ユダヤ人と改宗者、クレタ人とアラビア人たちである。私たちが彼らが私たちの舌で神の大いなる御業を語るのを聞くととは！」

— 使徒の働き 2章9-11節

地中海・中東地域の分布マップ (使徒2:9-11)



各地域の詳細と現代の対応位置

聖書中の地域名	現代の地理・国名	歴史的背景・エリアの特徴
東方地域 パルテア・メディア・エラム	イラン、イラク東部	ローマ帝国の東方国境線（ユーフラテス川）を越えた巨大帝国・旧ペルシアエリア。バビロン捕囚以降、多くのユダヤ人が残っていた地域（捕囚の民の末裔）。
肥沃な三日月地帯 メソポタミア	イラク、シリア東部	チグリス・ユーフラテス両大河に挟まれた古代文明の発祥地。ここにも大規模なディアスポラ（分散したユダヤ人）コミュニティが存在した。
地元の地域 ユダヤ	イスラエル、パレスチナ	エルサレムを中心とする本国・地元エリア。ガリラヤ地方の話し言葉（アラム語のガリラヤ方言）とは異なる人々も含まれる。
小アジア（小州） カッパドキア・ポント	トルコ（アナトリア半島）	現在のトルコ全域に広がるローマ帝国の諸州。交易路が発達しており、各地の主要都市にはユダヤ人の会堂（シナ

聖書中の地域名	現代の地理・国名	歴史的背景・エリアの特徴
アジア・フリギア・パ ンフィリア		ゴーク）が立ち並んでいた。後のパウロの伝道旅行の主要 舞台。
北アフリカ エジプト・リビヤ（ク レネ）	エジプト、リビア	アレクサンドリア（エジプト）は当時世界最大のユダヤ人 人口を抱える知の拠点（旧約聖書のギリシャ語訳「七十人 訳」の制作地）。クレネも北アフリカの重要都市。
西方世界 ローマ（からの旅人）	イタリア（ローマ）	ローマ帝国の首都。ユダヤ人および改宗者（異邦人であり ながらユダヤ教信者となった人々）の大きなコミュニティ が存在した。
島嶼・南部 クレタ・アラビア	ギリシャ・クレタ島 ヨルダン、サウジアラビア	地中海の重要拠点であるクレタ島と、シリア砂漠からアラ ビア半島にかけての広大な地域（ナバテア王国など）。

使徒の働き 2章における地理的意義

ペンテコステの日に聖霊が降臨した際、ここに挙げられている地域は**当時の既知の世界（ローマ帝国＋東方パルテ
ア帝国）のほぼ全域**を網羅しています。東はイランから西はイタリア、北は黒海沿岸から南はエジプト・アラビア
まで、あらゆる地域からエルサレムに巡礼に来ていた人々が、それぞれの母国語で福音を聞きました。これは、将
来福音があらゆる民族・国家に広がっていくことを象徴する出来事です。